

平成30年度

東京藝術大学美術学部先端芸術表現科

入学者選抜試験 第一次試験問題 素描

■問題

石膏像と鏡に映った自分を描きなさい。

■補足説明

用紙は縦位置で使用しなさい。

■試験時間 10:30～16:00

昼食時間 12:00～13:00（昼食時間に試験を続けてもよい）

■配布物

問題用紙、
両面鏡、木炭紙大画用紙（イラストボード）1枚、カルトン、
クリップ2個、下書き用紙（A4）3枚

■注意

使用できるのは、鉛筆素描に必要な用具一式。
他の受験生に迷惑のかかる行為を禁止する。
試験終了後、この問題用紙は回収します。

平成 30 年度

東京藝術大学美術学部先端芸術表現科

入学者選抜試験 第一次試験問題 小論文

問題 1

課題文 1、2 を読んで以下の問題に解答しなさい。

問題 1-1

課題文 2 は課題文 1 に書かれたような経緯で、スティーブン・ピンカーによって出された問い「あなたのお気に入りの、深遠で、エレガントで、美しい説明は何ですか？」に対し、ロバート・プロヴァインが寄せた回答です。傍線部 1 において筆者は 私は、自分の「感覚と知覚」という科目で、これはすべてを説明する理論についての講義なのだ と述べているが、どうして「感覚と知覚」という科目がすべてを説明することになるか、自分の言葉で 160 字以内で書きなさい。

解答は解答用紙の問 1 - ①に記述しなさい。

問題 1-2

傍線部 2 において筆者は 観察に関する私の情熱は、審美的であるとともに科学的でもある。 と述べている。筆者は「情熱」とか「審美的」という言葉で何を伝えようとしているのか、160 字以内で書きなさい。

解答は解答用紙の問 1 - ②に記述しなさい。

問題 2

課題文 3 を読んで以下の問題に解答しなさい。

問題 2-1

これは「路上観察学入門」(著者：赤瀬川原平、藤森照信、南伸坊ら)の中でマニフェスト(宣言文)としての藤森照信により書かれた、「路上観察の旗の下」という 1986 年の日付の入った文章である。筆者はユーモアを交えながら「路上観察(学)」と仮想敵国として「芸術」を比較しているが、その両者の相違、関係を箇条書きにして 5 つあげなさい。各文章は 60 字以内とします。

解答は解答用紙の問 2 - ①に記述しなさい。

問題 2-2

筆者は「路上観察(学)」と類縁のものとして「空間派」をあげ比較を行っているが、両者の違いを240字以内でまとめなさい。

解答は解答用紙の問2-②に記述しなさい。

問題 2-3

路上観察[学]という視点、方法は現在から見ると、フィールドワークという言葉で置き換えられる部分もあり、このようなアプローチはアートの手法の一つになっているともいえる。アートと路上観察[学]に関しあなたの視点から1000字以内で自由に論じなさい。

解答は解答用紙の問2-③に記述しなさい。

※出典：課題文1、2とも ジョン・ブロックマン編 長谷川真理子訳「知のトップランナー149人の美しいセオリー」(青土社)より [課題文1：p13~15 / 課題文2：p117~118]

：課題文3 赤瀬川原平、藤森照信、南伸坊編 「路上観察学入門」(筑摩書房) [p6~22]

※記述にあたっては、縦書きで書くこと。

※試験終了後、この問題用紙は回収します。

試験時間 10:30~16:00

昼食時間 12:00~13:00 (昼食時間に解答を続けてもよい)

平成30年 東京藝術大学美術学部先端芸術表現科
入学者選抜試験 総合実技1日目 (3月2日)

問題1

自分自身をよく観察し、自刻像（首から上の像）を配布された材料を用いて制作しなさい。

※配布された材料を使用しなさい。（全てを使用しなくてもよい）

※制作台（45cm×45cm）の上のせて提出しなさい。高さは60cm以下にすること。

問題2

問題1で制作した自刻像について200字以上、300字以内で説明しなさい。

※解答用紙に200字以上300字以内、縦書きで記述。

試験時間：10時～15時30分

昼食時間：12時～13時（昼食時間に解答を続けてもよい）

作品提出：本日15時30分

※注意事項：試験終了後、この問題用紙は回収します。

平成30年 東京藝術大学美術学部先端芸術表現科
入学者選抜試験 総合実技1日目 (3月2日)

配布物リスト

【材料】

水粘土 7kg

シュロ縄 5m

【配布物】

配布物リスト 1枚 (この用紙)
自刻像のベースのつくり方1枚 (参考資料)
卓上鏡
手鏡
紐付きビニール袋 (提出用)
透明ポリ袋 (運搬用)

彫塑用制作台 (45cm×45cm)
つげべら
A4 コピー紙 5枚 (スケッチ等に使用)
たる木 (20cm)
タオル (手拭き用)
ウェットティッシュ (手拭き用)

注意事項

- ・ 床や白壁を材料で汚さないこと。
- ・ 手を洗う際には、トイレは使用せず各所に設置されている「手洗い場」や、ウェットティッシュを使用すること。
- ・ タオル、ウェットティッシュは、手を拭く際に使用すること。※制作には使用しないこと。
- ・ 紐付きビニール袋は、試験終了後に提出する際、作品の乾燥防止で被せるために使用します。※制作には使用しないこと。
- ・ 透明ポリ袋は、シュロ縄を「手洗い場」で濡らし、自分の席まで運ぶときに床を濡らさないようにするために使用します。※制作には使用しないこと。
- ・ 包装紙等のゴミ類はすべて、足元にあるブルーコンテナに捨てること。

※試験終了後、この用紙を回収します。